

廃炉基盤研究プラットフォームの運営見直しについて
(案)

令和元年 7 月 16 日
廃炉国際共同研究センター

1. はじめに

- ・ 1F 格納容器内の内部調査が進捗するとともに、1F で採取された試料の実データが蓄積されつつあること、今年度末頃には、初めての燃料デブリのサンプル採取が予定されていることなど、1F 廃炉に向けて進展が見られ、これらの状況を踏まえて研究を進める必要があること。
- ・ 原子力損害賠償・廃炉等支援機構（以下、「NDF」という。）の連携会議で作成された「6つの重要研究開発課題」については、研究戦略の検討が進んだこと。
- ・ 基礎・基盤研究については、成果を日本原子力研究開発機構（以下、「JAEA」という。）廃炉国際共同研究センター（以下、「CLADS」という。）に集約することを目的として、文部科学省が実施していた「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」（以下、「英知事業」という。）を平成 30 年度の新規募集より、JAEA/CLADS が英知事業の主体となり、このことを踏まえた運営を図る必要があること。
- ・ 平成 30 年度に「基礎・基盤研究の全体マップ」（以下、「研究マップ」という。）の整備を行い、平成 31 年度の英知事業の募集において、具体的な募集テーマとして提示したが、引き続き研究マップの内容の充実（例えば時間軸）を図る必要があること。
- ・ 上記を踏まえ、廃炉基盤研究プラットフォーム（以下、「プラットフォーム」という。）の運営を一部見直す。

2. プラットフォームの目的

プラットフォームは、廃炉に関する基礎・基盤研究の推進を図ることを目的とする。

具体的な活動として下記を考慮する

- 1) 基礎・基盤研究に関する情報共有
- 2) 基礎・基盤研究戦略への提言
- 3) 人材育成事業の展開
- 4) その他、プラットフォームで必要と判断された事項

3. プラットフォームの活動体制と構成員

(1) プラットフォーム運営会議

プラットフォームの活動について、活動方針、活動体制、活動計画及び活動状況の把握等を協議するため、プラットフォーム運営会議を設置（継続）する。構成員は廃炉基礎基盤研究に対して、俯瞰的な立場から議論に参画いただける方を想定する。構成員の一例は以下のとおりとする。

- ・ 文部科学省による英知事業の廃止措置研究・人材育成等強化プログラムの採択者

（注）今年度で文部科学省のプログラムは終了するが、事業終了後も廃炉に係る基礎・基盤研究の全体を俯瞰した研究及び人材育成に係る活動を継続して実施することから参加を要請する。

- ・ JAEA による英知事業の研究人材育成型廃炉研究プログラムの採択者
- ・ 各分科会及びワーキンググループの主査又は主査が指名した代理者
- ・ CLADS センター長の指名するもの
- ・ 文部科学省、NDF、国際廃炉研究開発機構（以下、「IRID」という。）、東京電力ホールディングス（株）「以下、「東京電力」という。」及びその他機関は、オブザーバとして参加を可とする。

(2) 分科会

CLADS が作成する研究戦略について、外部有識者の意見等を反映して、成案とするため、プラットフォームの下に分科会を設置する。

なお、今年度、分科会の構成を継続も含めて再編を行う。

分科会に英知事業課題解決型プログラムの採択者に参加を要請することも想定する。

(3) 研究マップ検討ワーキンググループ

JAEA/CLADS が策定する研究マップについて、課題横断的な観点から各分科会の意見等を集約し、研究マップに反映するため、研究マップ検討ワーキンググループを新たに設置する。構成員の一例は以下の通り。

- ・ 各分科会の主査又は代理者
- ・ 英知事業課題解決型プログラムの PO
- ・ NDF、IRID、東京電力、JAEA/CLADS(各 DL 又は副 DL)
- ・ CLADS センター長が指名するもの
- ・ 主査は、CLADS センター長が指名

* プラットフォームの構成を参考に示す。

以 上

プラットフォーム構成 (案)

